

令和四年度 山口大学入学者選抜学力検査 国語 解答・解答例

※ この『解答・解答例』についての質問、照会には一切回答いたしません。

※ 『解答例』はあくまで解答を例示したものです。

一

問一 ① ほんろう ② し ③ 緩慢 ④ 見当 ⑤ むさぼ ⑥ 端的

問二 4

問三 読書とは過去を呼び出し、現在のテキストを通じて未来の何かに役に立つことを期待させる行為である。(四十七字)

問四 読んだ本の大部分が読まないのとまったくおなじ結果になっている(三十字)

問五 自分が変化すればするほど新しく読めるということは論理的必然としては認識しているものの、そこにたどり着ける人は多くないだろうと考えている。(六十八字)

問六 本に「冊」という単位はなく、様々な本のいろんなページを時間の経過の中で組織したテキストのみが読みうるものであるということ。(六十一字)

問一 dとe

問二 A・・・エ B・・・ウ C・・・カ D・・・オ

問三 ①幼い ③取るに足りない ⑤ご覧になりたがっていらっしやるけれども ⑥やはり出家しよう

問四 学識のある人が長寿と幸福を共に得ることは難しく、高い身分に生まれて他の人に劣ることがない者は無理に学問の道を究める必要はないと考えたから。(七十字)

問五 光源氏の習得した芸事が故桐壺院の深慮と教育方針によるものであったと知らされ、院の事が懐かしく思い出されたから。(五十五字)

問六 光源氏は無常観から出家願望を強く持つ一方で、幼少の子供達を思い通りに育てあげ、将来を見届けたいという思いもあるから。(五十九字)

問一 秋（または「晩秋」。「初冬」も可。）

問二 ウ

問三 稀・飛・帰・衣

問四 エ・キ

問五 ①みずにおかいて（または「みずにおかつて」）

②いまだかえらず

問六 渡し場には月が昇ったばかりで、隣の家の人、漁に出かけてまだ帰ってこない。

問七 晩秋の旅の宿で、周囲の光景に孤独感や疎外感を覚え、響く砧の音に、激しい望郷の念をかきたてられている。
(五十字)